

(2) イベント活動の実施

委員会は、学校生活をよりよくするために行われます。ここでいう「よりよく」というのを、私は「より楽しく、より豊かに」という意味でとらえています。そのために何をしたらいいでしょう。私はイベント活動を仕組むことだと考えます。

イベントといえば〇〇集会というものが真っ先に頭に浮かびます。しかし集会だけがイベントではありません。期間限定でも構いませんので、もっと自由に企画させてみましょう。まさに、係活動と同じ発想なのです。子どもたちは、自由な発想が認められていると分かれば結構面白い活動を考えるものです。私がこれまでに関わった委員会の例を挙げておきますので、参考にしてください。

- [保健委員会] 外で遊ぼう週間、風邪をぶっとばそう月間
- [飼育委員会] 飼育小屋や動物たちの名前募集、生き物スケッチ大会
- [美化委員会] ごみひろい週間、校内の飾りコンテスト
- [運動委員会] 遊び週間、スポーツコンテスト
- [放送委員会] 学級ビデオ紹介、有名人発見
- [広報委員会] 学級新聞コンテスト、原稿募集、インタビュー祭り
- [図書委員会] 新刊案内コーナーづくり、読み聞かせ（紙芝居）の会
- [音楽委員会] 今月の歌紹介、歌のクイズ大会、全校のど自慢大会

いろいろな企画にやわらかい頭でチャレンジさせてみてください。

いろいろな新しい企画をするには、どうしても教師の手を必要とします。子どもたちの発想を大切にしながら、教師もいっしょに楽しいイベントを作り上げてほしいと思います。

(3) 委員長会の開設

委員会同士の横のつながりをもたせるために、委員長会を設置します。

この委員長会、原則として毎月の委員会活動のあとに行うことにしておきます。そこでは、それぞれの委員会からの反省とその月の予定を報告し合います。その際、イベントを企画した委員会があれば、他の委員会に協力を要請します。

例えば、体育委員会が昼休みにフリースロー大会を企画したとしましょう。そういう時に委員長会を行い、放送委員会がコマーシャルをし、掲示委員会がポスターを貼るなどの協力をすることを決めるのです。

これら、3つの活動を行うことによって委員会も活性化するし、同時に学校生活もよりよくなっていくと考えています。

さっそく、特別活動の解説書の中身について書いてみようと思います。まずは「目標」から。

◆特別活動の目標◆◇◆

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。

このたび示された特別活動の目標は、以上のようになっています。

この中で「望ましい集団活動を通して」「心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り」「集団の一員として」「自主的、実践的な態度を育てる」という文言は、これまでどおりですが、新たに「人間関係」と「自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う」という文言が付け加わっています。

「心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り」の部分は、「個々の児童が将来において社会的な自己実現を図るために必要とされる資質の基礎を培うことをねらいとして示されたもの（解説P11）」だということで、個人的な資質の育成について示されています。

この中に一カ所、興味深い文言を見つけました。それは次の文言です。

目標に示した「個性」とは、自己中心的な「閉じた個」ではなく、集団から認められ、集団の中で自らのよさをよりよく発揮し、他者と協調できるような「開かれた個」である（解説P12）。

これまで「個性の尊重」という言葉は多く使われてきましたが、「個性」というものの概念がはっきりと示されていなかったので、「自分さえよければよい」というものも「個性」の一つだ、みたいな捉え方をされていた部分があったように思うのです。それが、このように「開かれた個」が「個性」であると明確に示されたことで、まちがった使われ方ができなくなるということになったわけです。

「集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする」の部分は、「様々な集団活動を通して、自分の所属する集団への所属意識をもち、集団の一員としての自覚をもって生活の向上のために進んで貢献していこうとする社会性の基礎を育成していくことを示している（解説P12）」とあります。つまり、社会的な資質の育

成について示されているものです。

「自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う」というのは、このたびの改訂で主な改善事項の一つにあげられた「道德教育の充実」との絡みで新たに加わったものということです。解説には、「例えば…」ということで「集団の一員として、目標をもつこと、将来に夢や希望をもって現在の生活を改善しようとする事、協調性や責任感、規範意識を高めること、人権を尊重することなどにかかわる自己の生き方についての考えを深め、その大切さを認識できるようにすることである」と書かれています。

3 メルマガ編集部からのお知らせ

◆次号の予告◆◇◆

第63号は8月下旬ごろ発行予定です。

次号は、委員会活動に引き続き、アンケート結果からの特別活動の課題についてお送りします。

◆山口学級活動ネットワーク メールマガジンの登録について◆◇◆

現在の購読者は225名です。これまで以上に内容を充実させていく必要を感じています。もっともっとメルマガ仲間が増えるといいなと思っています。お知り合いの方にこのメルマガを紹介してください。登録については、山口学級活動ネットワークのホームページをご参照ください。

url: <http://www.yamakoshu.org/gakkatu-net/>

◆内容の充実について◆◇◆

このメールマガジンでは、読者のみなさんのニーズに応える紙面作りに取り組んでいこうと思っています。こんな内容について書いて欲しい。こういう情報が欲しい、ということをお知らせください。

sugi-net@c-able.ne.jp

本年度中に特別活動の年間計画をつくる必要があります。そのあたりについても可能な限り書いていこうと思います。

◆実践投稿のお願い◆◇◆

読者のみなさん、みなさんが取り組まれている情報を送ってください。学級づくりの実践を広げ、共有していきましょう。

本メールマガジンでは、次のような新しいテーマで情報交換を行ってみようと考えています。どんな小さな事でもけっこうです。情報をお待ちしています。

*こんな時、どうする？コーナー

学級での生活の中でのいろいろな場面を想定し、その時、どういう手立てをうてばよいか、についての実践を紹介してください。これまでに取り組まれたことのある実践もお待ちしています。

*学級づくりで、はっ！とさせられたこと

長く学級担任をやっていると、自分のやり方が当たり前になってしまっていることに気づかされることがあります。それを教えてくれるのが子どもたちだったりします。そういう出来事や子どもたちのつぶやきを紹介してください。

*子どもってすごいなあ！と思ったこと

子どもがもっているものって素晴らしいです。子どもたちといると、「子どもってすごいなあ」と感心させられることが多々あります。子どもたちのそういう姿を紹介しあいませんか。

みなさんも、ぜひ以下のアドレスまでよろしくお願いします。

sugi-net@c-able.ne.jp

=====

山口学級活動ネットワーク メールマガジン

☆ご感想・ご意見はsugi-net@c-able.ne.jpまで

☆編集・発行 山口学級活動ネットワーク メールマガジン編集部

梶田崇晴（山口市立平川小）

津村元文（美祢市立伊佐小）

吉田哲朗（山口大学教育学部附属山口小）

=====